

**August 12, 1985**

**Cable No. 663, Ambassador Kato to the Foreign  
Minister, 'Problem of the Release of the American  
Hostages (Meeting of Special Envoy Nakayama and  
President Assad)'**

**Citation:**

"Cable No. 663, Ambassador Kato to the Foreign Minister, 'Problem of the Release of the American Hostages (Meeting of Special Envoy Nakayama and President Assad)'", August 12, 1985, Wilson Center Digital Archive, Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan, File No. 2017-0631. Translated by Stephen Mercado.  
<https://digitalarchive.umd.edu/document/270609>

**Summary:**

A telegram from Japanese Ambassador Kato to the Foreign Minister summarizing a meeting between Special Envoy Nakayama and President Assad about the relationship between Syria and Japan and the American hostages in Lebanon.

**Original Language:**

Japanese

**Contents:**

Original Scan  
Translation - English

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の内容に関する照会、要望等は特殊電配布班(TEL2175)に連絡ありたい。

極秘

大政事外外儀官  
務務典房  
次次  
臣官官審審長長

電信  
**限定配布**

電の主任委員は記帳班 (TEL2172) に連絡ありたい。

大外査特 使研審室	博代表
総対文会厚情オ 括審察人電在儀警史	
外報官 領移長	審報内 際外 文長 一二 参一二旅査移
ア長	審地中東 参北東西 一
北米長	審一二保
中南長 欧長	審一二 審西ソ洋 西東 二
近アア ア長	参一二アア 二
経長	次参経漁途国 審総経エ国博 二ネ一 審海
経協長	審政国開無 参調技有理
条長	審条協規
国長	参政経人 参軍社
科審	科原
情調長	審情析調 審企安

総番号 R109097

主管

年 月 12日 00時 15分 シリア 発  
60年 08月 12日 07時 33分 本省 着

近ア局長

外務大臣殿

加藤大使

米国人人質解放問題 (中ヤマ特使とアサド大統領の会談)

第663号 極秘 大至急

「限定配布」

往電第662号に関し

中ヤマ特使は11日午後1時30分より1時間15分間大統領公ていにおいてアサド大統領と会談したところ概要次の通り。(わが方本使、先方ノート・テーカーのみ同席。通訳マツモト在イエメン大りん代)

右会談は終始極めてなごやかなふんい気のうちに行われた。アサド大統領は親書を手にもがねをわすれたとして先方同席者にめがねを取りに行かせ、日本のがん科い学の進歩について質問したりあるいは南レバノンのゲリラがロバを利用して以来イスラエル軍は南レバノンの各村落のロバをとう録しロバの通行証を発行しているなどのエピソードをひろうし爆しようするなどの場面もあつた。

アサド大統領：

(特使来訪をかんげいした後) いつ当地に到着されたか。

特使：

昨日到着した。

## 注 意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は特殊電配布班(TEL2175)に。  
に。
3. 本電の主管変更は記帳班 (TEL2172) に連絡ありたい。

## 電 信 写

大統領：

前に当地を訪問したことありや。

特使：

過去に何回か訪問し最近は2年前に訪問した。今回総理の特使として参つたが自分は中東調査会の理事長の他に最近日・シリア友好協会の会長になつたのでこの地域にはこれからしばしば来ることになると思うのでよろしく御願ひする。9月には当地で行われる日本週間のためにまた来ることになると思う。

大統領：

両国間の文化面での関係強化の必要があると考える。日・シリア友好協会の会長として両国間の文化関係の緊密化に努力していただきたく成功をいのる。

特使：

ナカソネ総理の親書を掲行しているのでお渡しいたしたく今回の自分の訪問の目的がよく説明されているので御一読いただきたい。(ここで親書を手交)

大統領：

(一読後) 親書をいただいて感謝する。親書に述べられているナカソネ総理の御考えはよく理解できた。どうぞお話しいただきたい。

特使：

最近シハラ外相の訪日、アベ大臣のシリア訪問にみられるように両国間の人的交流がさかんになつた。これによつて両国間の政治、経済、文化面における強固な基礎が作られつつある。日本は中近東の平和に対して非常に大きな関心をもっており、外交上も重要な問題となつている。この関連において先般のTWA事件の解決に際し貴大統領

極秘

## 注 意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は特殊電配布班(TEL2175)に。
3. 本電の主管変更は記帳班(TEL2172)に連絡ありたい。

## 電 信 写

領のはたされた重要な役割および努力は日本政府及び国民はかつさいしそんけいしている。これとの関連で親善にも述べられているように、現在レバノンで人質となつて  
いる米国人7名を含む外国人の解放について貴大統領の特別の御じん力をお願いしたい。このことはアベ大臣よりシャラ外相にもお話ししたところでもあるが今回自分を  
特使として派遣し再度お願いするというナカソネ総理の真しな気持を御理解願いたい。  
。昨日シャラ外相とも長時間話し合つたがこれらの人質がどこにいるのかも分らない  
とのことであるが、居所の分つている者について一日も早く解放方努力をお願いしたい。

大統領：

日本との意見の交換が継続していることをよろこばしいと思う。かかる交流が一層活  
発化することを期待する。中東和平問題及び両国間関係増進の必要性については先般  
アベ大臣とじゆう分話し合つたところでありこの意見交換がよい成かを生んだものと  
信じている。国際テロについてはシリアは場所のいかんを答わずかかる行為を拒否し  
ている。特に軍事的に何ら関連のない一般市民に対するテロ行為には強く反対する。  
しかしシリアの立場としては、かくのごときテロ行為と主権侵害に対する抵抗措置と  
は明らかに区別する必要があると考える。主権侵害はテロ行為の最たるものであり、  
イスラエルのレバノン侵攻はテロの行為としては最悪のものである。レバノン人のイ  
スラエル軍に対する行為は国民的、軍事的抵抗の一形態である。イスラエル軍は進歩  
したロケットや武器、正規軍をもつてレバノンを侵攻した。これに対しこれらのもの  
をもつていないレバノン人がイスラエル軍に対抗するため、あらゆる可能な手段を講  
ずるのは当然であろう。

## 注 意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会，要望等は特殊電配布班(TEL2175)に。  
に。
3. 本電の主管変更は記帳班 (TEL2172) に連絡ありたい。

## 電 信 写

シリアはイスラエル軍のレバノン侵略に直接関係のない市民を人質にとつても、イスラエルのレバノン侵略問題の解決には資さないということをレバノンの各グループに伝えている。レバノンの主要グループとの間ではこのような思想統一が明確にできている。しかし、レバノンには小さなグループが多数存在し、それらのグループは独自の考えに基づいて行動している。これらの小さなグループとシリアの間には政治的協力関係はないが、政治性のない側面で連絡をすることはある。いろいろな形態でシリア人とこれらのグループの人がある目的で接触することはあり、シリアとこれらのグループとの間には敵対関係はない。(関係はむしろよい)しかしその関係は相ご理解あるいは友情といったものであり、確固たる基盤の上に乗っているものではない。レバノンの大きなグループとの間には主要な問題についての意見調整はできているが、小さなグループについてはイスラエルと事をかまえる場合にのみ接触の場ができるにすぎない。レバノンでは非アラブ人だけでなく、アラブ人もゆうかいされており、サウデイりん時代代理大使がゆうかいされたことがある。この件については長い間話し合いを続け1年間居所等について「タライ回し」されたあげく、約3カ月前に所在がわかり引渡しが実現した。

米国人7名のゆうかいについて、これまでにかれらと話し合ったことがある。レーガン大統領も書簡を送ってきた。われわれが目ぼしをつけて、ある者に連絡をとつてみると自分は関係がない、しかしさがしてみようといった応待が続いただけであつた。しかし、2カ月前南レバノン問題に関する安保理審議に関連し米国が拒否権を行使したためかれらとの接触がとだえた。その後TWA事件が発生した。TWA人質問題は非常に困難な状況にあつた。レーガン大統領は書簡を送ってきた。この書簡はハイジ

## 注 意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は特殊電配布班(TEL2175)に。
3. 本電の主管変更は記帳班(TEL2172)に連絡ありたい。

## 電 信 写

ャックされた飛行機がアルジェリアとの間を往復している時であつた。この事件についてはわれわれは当初から事態をフォローしていた。小グループが大きなグループの目をかすめて、4名の人質を他のところに連れていつたが、われわれは他のグループと接触があつたが、4名がどこにいるか分つていない。この後の人質解放の交渉はレバノングループ側の見返りの条件がはつきりしていたのでうまく行つた。米国はTWA事件の人質解放とイスラエルがこよう留しているレバノン人の釈放とを結びつけたいと強く要請し同時交換を拒否した。レバノンのグループはシリアに対し在イスラエル・レバノンほりよ釈放について米国の保障をとりつけるように求めたので、米国につないだところ、米国は拒否した。話が大づめになつてレバノンのグループは4名の釈放を拒否し、このため合意された釈放の時間がまる一日遅れ、その間米国の保証をとりつけた。しかし残念ながら米政府はこの合意を完全には実施していない。この点についてシリアは何も公表していないが、在シリア米大使に対しねりかえし実施方求めている。

この様に、TWA事件についてはシリアとして当初から事態をはあくしていたので解決に導き得たが、米国人7名についてはかれらがどこにいるのかも不明であり、だれの行為かも分つていない。個人的な行為である。時には情報が入ってくることもあるが常にあいまいであり振りまわされてきた。この他に別の困難がある。例え居所がわかつたとしても、力を行使すると人質の人めいに危険がある。従つて、人めいをそん重しながら問題を解決するためにはこれらのグループと相ご理解を深める必要がある。ナカソネ総理に対しわれわれは出来るだけの努力をはらうことを約束する。現実には大きな困難がある。この問題は非常に微みようなものなので事に当つてはせん細な配

## 注 意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は特殊電配布班(TEL2175)に。
3. 本電の主管変更は記帳班(TEL2172)に連絡ありたい。

## 電 信 写

慮をはらうべきでいかなる間違いも許されない。この解決に当つては先方グループと信頼関係をつくり、協力を求めて行くということでなければならぬ。成かが生れることを期待している。ナカソネ総理の要請に對し応じたいと思つておりうまく行くことを切に期待している。

特使：

ただ今の貴大統領の御言ばを厳しゆくな氣持でうかがつた。ナカソネ総理にも貴大統領の御言ばをお伝えする。この人質問題は単に米国のみならず、世界のゆう慮するところであり、このようなふんい氣は平和の道ではなく、爆発の道になるのではないかとおそれている。イスラエルによく留されているレバノン人の釈放については、最初にどこにいるか分つている米国人人質だけでも釈放すれば、ふんい氣を改善してイスラエルの釈放へとつながるといふ考もあろうのではないか。

大統領：

現実的ではない。TWA事件は全く1個の事件であつた。この時の合意は735人のレバノン人をTWAの人質と交換で釈放するというものである。現在イスラエルに残つているレバノン人と7人の米国人との間には何らの關係もない。かつてこれに關係のない4人の人質が何らの見返り要求もなく釈放されたケースがある。もちろんTWA合意が完全に実施されれば7人の釈放に何らかのチャンスにあたえることになるかも知れない。しかし本来TWAとの關係でイスラエルにいるレバノン人が釈放されても、これらのグループの見返りにはならない。

レバノン人の對イスラエル軍低抗活動は日増しに激しさを加えており、イスラエルの南レバノン侵攻はイスラエルの最大の軍事的失敗である。

外 務 省

R109097-06

## 注 意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は特殊電配布班(TEL2175)に。  
に。
3. 本電の主管変更は記帳班 (TEL2172) に連絡ありたい。

## 電 信 写

特使：

御説明に感謝する。困難についてはよく分つたが、日本の立場をもう一度説明させていただきたい。日本は中近東からとなく、またこれまで関係のうすい国であつた。しかし、この地域の平和はわれわれの生活にとつても重要である。人道的立場から人質ないしゆうかい等のテロ行為をこの世から一そうするためにこうけんしたいとの考えから貴大統領のもとに参つた次第である。貴大統領の御じん力及び影響力行使によりこの問題解決すれば日本国民はすべてこれをかんげいし、貴大統領の御努力を多とするだろう。世界の平和のみならず日・シリア親善関係にも非常によい影響をあたえるであろう。双方の努力により両国間にはいろいろな面で対話及び協力関係があるが、かくのごとき協力関係が人質の解放ということで実証されることになればナカソネ総理はもとより日本国民は大いに感謝するであろう。かくのごとき相ご信頼のもり上りを「テコ」にしてことに経済・文援の面で協力を強化することが容いになるであろう。この面で何なりと協力できることがあればお知らせいただきたい。人質解放について進展あらば御通知願いたい。

大統領：

ありがとう。よく分つた。イスラエルのレバノン人ほりよはイスラエルにとつても大きな物になりつつある。確か米国政府はイスラエルは今月中にレバノン人ほりよを釈放することとなる旨伝えてきた。この釈放の直後にも動き出してみたい。今後とも本件に関しては御連絡することとしたい。本件で協力できることはわれわれにとつてよるこびであり、貴特使が述べたとおり両国間協力関係にとつて有益であるということについては全く賛成である。

2011/02/25  
2011/02/25  
極秘  
2011/02/25  
2011/02/25

## 注 意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会、要望等は特殊電配布班(TEL2175)に。
3. 本電の主管変更は記帳班 (TEL2172) に連絡ありたい。

## 電 信 写

特使：

貴大統領より極めて御厚意あるお話しをたまわり感謝申し上げるとともにちく一ナカソネ総理に御報告いたすべし。

大統領：

ナカソネ総理及びアベ大臣によろしくお伝えいただきたく、総理及びアベ大臣の御健康と御成功をき念する。

御見込みにより関係公館に転電願いたい。(了)

Number: R109097

Primary: Middle Eastern and African Affairs Bureau Director-General

Sent: Syria, August 12, 1985, 00:15

Received: MOFA, August 12, 1985, 07:33

To: The Foreign Minister □

From: Ambassador Kato

Problem of the Release of the American Hostages (Meeting of Special Envoy Nakayama and President Assad)

No. 663 Secret Top Urgent

(Limited Distribution)

Re: Outgoing Telegram No. 662

From 1:30 on the afternoon of the 11th, for an hour and thirty minutes, Special Envoy Nakayama met President Assad at the president's official residence. A summary of the meetings main points follows below. (I attended on our side. The only other person present on the other side was a note taker. The interpreter was Matsumoto, charge d'affaires ad interim at the Embassy of Japan in Yemen.)

The conversation took place in a very friendly and relaxed atmosphere. President Assad, upon receiving the letter said that he had forgotten his glasses and had someone present from the other side go and bring them to him. The conversation then included his asking about Japanese advances in ophthalmology and introducing such episodes as how, after guerrillas in Southern Lebanon made use of donkeys, the Israeli military registered the donkeys in each village of Southern Lebanon and issued passes for them. He then burst out laughing.

President Assad:

(After greeting the Special Envoy) When did you arrive here?

Special Envoy:

I arrived here yesterday.

President:

You have visited here before, haven't you?

Special Envoy:

I have visited here a number of times in the past. Most recently, it was two years ago. I am here this time as the Prime Minister's special envoy but, since I have recently become chairman of the Japan-Syria Friendship Association in addition to being chairman of the Middle East Institute of Japan, I think that I will from this point onward be visiting this region often, so I would like to thank you in advance. I expect to come again in September for Japan Week, which will be held here.

President:

I think that there is a need to strength cultural relations between our two countries. I wish you success in you work as chairman of the Japan-Syria Friendship Association to bring cultural relations between our two countries closer together.

Special Envoy:

I have brought with me a letter from Prime Minister Nakasone, which I would like to pass to you. It explains the purpose of this visit, so please read it. (He hands over the letter.)

President:

(After reading the letter) Thank you for this letter. I now understand the thoughts of Prime Minister Nakasone, which he wrote in his letter. Please, speak.

Special Envoy:

As seen recently in Foreign Minister Shara's visit to Japan and Minister Abe's visit to Syria, exchanges of persons between our two countries have increased. By means of this, a solid base is being created between our two countries in political, economic, and cultural fields. Japan has a very great interest in peace in the Middle East, which has also become an important issue in diplomacy. In this connection, the Government of Japan and the Japanese people applaud and respect the President's important role and efforts in the recent resolution of the TWA Incident. In this connection, as you mentioned in friendship, I would like to request the President's particular and utmost efforts for the release of the foreigners, including the seven Americans, now held hostage in Lebanon. Minister Abe has spoken of this to Foreign Minister Shara already, but I would like you to understand the earnest sentiment of Prime Minister Nakasone in sending me here this time as his special envoy to make this request again. The Foreign Minister and I had a long conversation yesterday. Where these hostages are is said not to be known, but I request your cooperation in the release as soon as possible for those whose whereabouts are known.

President:

I am happy to continue the exchange of views with Japan. I hope that such exchanges become even more active. I had an ample discussion with Minister Abe the other day on the necessity of peace in the Middle East and the promotion of relations between our two countries. I believe that this exchange of views bore good results. Regarding international terrorism, Syria rejects such acts regardless of where they take place. In particular, we strongly oppose terrorist acts against civilians who are in no way connected to the military. However, I think it necessary to clearly distinguish Syria's position regarding such terrorist acts and measures of resistance against the violation of sovereignty. Violating sovereignty is the utmost act of terrorism. Israel's invasion of Lebanon is the worst as an act of terrorism. The acts of Lebanese against the Israeli military are a form of national and military resistance. The Israeli military invaded Lebanon with advanced rockets, weapons, and a regular army. By contrast, the Lebanese did not have such things. In order to oppose the Israeli military, they take, of course, every means possible.

Syria has informed each group in Lebanon that taking hostage civilians with no direct connection to the Israeli military's invasion of Lebanon does not contribute to resolving the problem of Israel's invasion of Lebanon. Among Lebanon's major groups, they all clearly think this way. However, many small groups exist in Lebanon,

and those groups act based on their own thinking. There is no relationship of political cooperation between these small groups and Syria, but there are contacts on the non-political side. In various forms, there are contacts between Syrians and persons in these groups for one purpose or another. There is no hostile relationship between Syria and these groups. (Relations are rather good,) but they are relations of mutual understanding or friendship. They are not based on a solid foundation. With Lebanon's major groups, the coordination of views on major issues is possible. For the smaller groups, however, the only point of contact is opposing Israel. In Lebanon, not only non-Arabs but Arabs as well have been abducted. The charge d'affaires of the Saudi Embassy was also abducted. We continued talks concerning him for a year but in the end "got the runaround" on his whereabouts and other details. About three months ago, we learned where he was and achieved his delivery.

We have held talks on the seven abducted Americans. President Reagan, too, has sent us a letter. We fixed our attention on some persons and entered into contact, only for them to respond that they were not involved but that they would try finding someone. However, because the United States two months ago exercised its veto in connection to deliberations of the Security Council on the problem of Southern Lebanon, our contact with them came to an end. After that the TWA Incident occurred. The circumstances of the TWA hostage problem were very difficult. President Reagan sent a letter. It was at the time that the hijacked TWA aircraft was flying to then from Algeria that the letter was sent. Concerning this incident, we were following it from the start. The small group, deceiving the large group, took four of the hostages to another place. Having contacted other groups, we learned where the four persons were. The negotiations that followed for the release of the hostages went well because the Lebanese groups were clear on the conditions that they were demanding in return. The United States strongly requested that the release of the TWA Incident's hostages not be linked to the release of the Lebanese held in Israel and at the same time rejected an exchange. The Lebanese groups asked that Syria obtain from the United States a guarantee for the release of the Lebanese prisoners in Israel, so we contacted the United States, which then refused. As the talks were coming to a close, the Lebanese group refused to release the four hostages. Because of this, the agreed-upon time of release was delayed by an entire day, during which time we obtained from the United States a guarantee. However, unfortunately, the US government has not implemented this agreement at all. Syria has not announced anything regarding this point, but we we have made repeated requests of the US ambassador in Syria to implement it.

Thus, Syria from the start grasped the situation concerning the TWA Incident, so we were able to lead it to a resolution. Concerning the seven Americans, however, it is unclear where they are, nor do we know whose act this is. It is a personal act. Even the information that at times came in was vague and wavered about. There were other difficulties as well. For example, even if we knew their whereabouts, using force would put the lives of the hostages in danger. Accordingly, respecting human life, we need to deepen mutual understanding with these groups in order to resolve the problem. We promise Prime Minister Nakasone that we will do everything we can. Really, there are great difficulties in this. This problem is a very delicate one, so we have to take the greatest care on this. No mistakes will be allowed. In resolving this problem, we must build relations of confidence with those groups on the other side and ask for their cooperation. We hope that results come of this. I would like to respond to Prime Minister Nakasone's request. I truly hope that the matter goes well.

Special Envoy: I have solemnly listened just now to your words, Mr. President. I will convey your words to Prime Minister Nakasone. This hostage problem is a matter of concern not only for the United States but for the world. I fear that this kind of an atmosphere may become not the way of peace but that of violence. Concerning the release of the Lebanese held by Israel, if only the Americans whose whereabouts are known were freed first, could we not think of this improving the atmosphere and leading to the release of those held by Israel?

President:

That is not realistic. The TWA Incident was a single incident. The agreement at that time was to release 735 Lebanese in exchange for the TWA hostages. There is no relationship between the Lebanese who remain in Israel today and the seven Americans. There is the past case of the unrelated four hostages having been freed without any demand in return. Of course, had the TWA agreement been fully implemented, it perhaps would have offered some chance for the release of those seven persons. However, even if the Lebanese in Israel who from the start have been related to the TWA Incident are released, it will not be compensation for those groups.

Lebanese acts of resistance against the Israeli military are each day growing in intensity. The Israeli invasion of Southern Lebanon is Israel's greatest military failure.

Special Envoy:

Thank you for your explanation. I understand the difficulties, but please allow me once again to explain Japan's position. Japan is far from the Middle East and has been until now a country little connected to the region. However, peace in this region is important for our lives as well. I have come to see you, Mr. President, with the thought of contributing, from a humanitarian standpoint, to the elimination from this world of such terrorist acts as hostage-taking and abductions. If this problem were resolved with the President's efforts and influence, I believe that the Japanese people would welcome it and express appreciation for those efforts. It would have a very positive influence not only on world peace but on friendly relations Japan and Syria. We have dialogue and cooperative relations in various fields between our two countries as a result of efforts made on both sides, but if such a relationship of cooperation were demonstrated by the release of the hostages, then the Japanese people and, it goes without saying, Prime Minister Nakasone would be greatly appreciative. Using as a "lever" such a rise in mutual confidence would facilitate the strengthening of cooperation, particularly in the economic and cultural fields. In this respect, please let me know if there is anything at all we can do to cooperate. Please let me know if there is any progress concerning the hostages.

President:

Thank you. I understand. Israel's Lebanese prisoners are becoming a great burden for Israel as well. If my memory is correct, the US government informed us that Israel will probably release the Lebanese prisoners this month. I would like to start moving right after their release. I would like to stay in contact henceforth concerning this matter. Being able to cooperate in this matter is a pleasure. I completely agree, as you have said, that it is beneficial to cooperative relations between our two countries.

Special Envoy:

Mr. President, I thank you for your very kind words and I shall report in full what you have said to Prime Minister Nakasone.

President:

Please convey my best regards to Prime Minister Nakasone and Minister Abe. I pray for the good health and success of the Prime Minister and Minister Abe.

I would like you to please relay this to the relevant diplomatic missions. (End)